

企業ニュース アダストリア

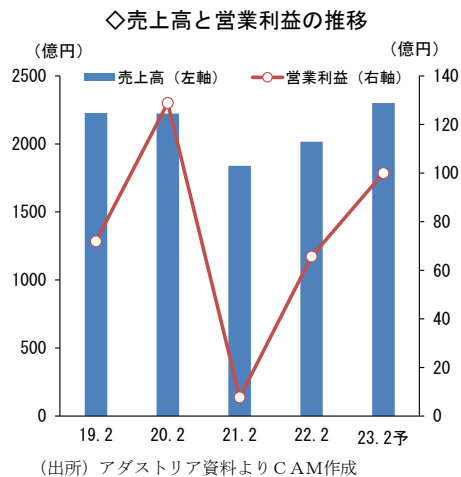
(東証プライム : 2685) <https://www.adastria.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

女性向けカジュアル衣料品販売が主力

カジュアル衣料品大手。代表的なブランドは、「グローバルワーク」「ニコアンド」「ローリーズファーム」など。衣食住といったライフスタイル全体の中で、当社既存事業と親和性のある分野に事業領域を広げる方針であり、社内での新規事業開発やM&Aを進めている。2022年2月には外食事業を営むゼットン(名証ネクスト:3057)を子会社化した。既存事業との連携、海外における互いのノウハウやネットワークの活用が見られるか注目したい。

今回発表した2022~2025年度の中期経営計画では、最終年度に売上高2,800億円(年平均成長率8.5%)、営業利益率8%を目指す。EC(電子商取引)の利用拡大や中国を中心とした海外展開を加速する方針。



22.2期は計画並みの営業利益を確保

22.2期の連結業績は、売上高が2,016億円、前期比10%増、営業利益が66億円、同8.6倍。売上高は計画比で174億円未達だが営業利益は計画線に着地、第4四半期(12-2月)の新型コロナウイルス感染再拡大や、原材料高・物流費増などコストアップの影響があったことを踏まえると健闘した印象。特に利益面では、在庫コントロールによる値引き販売の抑制で粗利益率が前期比0.6ポイント改善したほか、販管費率を抑制したことも寄与した。また、香港・台湾の増収増益、米国の大幅な営業赤字縮小による海外事業の営業利益黒字化も寄与した。

23.2期の通期会社計画は、売上高が2,300億円、前期比14%増、営業利益が100億円、同52%増。経済活動が緩やかに正常化に向かうことを前提に、既存店売上高の回復と、増収に伴う粗利益増を見込む。自社ECサイト「ドットエステ」のテレビCM効果による認知度拡大も増収に寄与しよう。なお、ゼットン連結化の影響は売上高で90億円、営業利益はのれん償却でほぼ相殺されるとのこと。足元の原材料高への対応として、商品価値に見合った価格への見直しのほか、代替原料の活用や東南アジアを中心とした生産地の分散化に取り組む。

[株価動向・投資判断]

EC事業、海外事業など成長分野への注力による中長期の業績拡大に期待したい。

<2685 アダストリア 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.2	183,870 (▲17)	766 (▲94)	2,981 (▲77)	▲693 (—)	▲14.9	40.00
22.2	201,582 (10)	6,564 (757)	8,166 (174)	4,917 (—)	108.7	55.00
23.2 予	230,000 (14)	10,000 (52)	10,000 (22)	6,300 (28)	139.2	55.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価(2022/4/22)	2,110 円
年初来高値(高値日)	2,234 円(22/4/14)
同 安値(安値日)	1,555 円(22/3/9)
予想P E R(23.2予)	15.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,192.6 円
P B R	1.77 倍
予想配当利回り	2.61 %
(1株当たり配当金年55.00円)	
R O E(22.2)	9.4 %
発行済み株式数	4,880 万株